

内丸地区将来ビジョンと内丸プランの目標（案）

内丸プランでは、内丸地区将来ビジョンにて掲げられたあるべき姿を都市計画によって具体化するための方針・方策を提示する。そこで、内丸地区将来ビジョンに照らして実現すべき目標と内丸地区の現状を踏まえて解決すべき課題として目標を設定する。

■内丸地区将来ビジョン

重視すべき視点

①社会経済活動の中心的役割の維持

・今後も国際社会の中で全世界に目を向けながら盛岡市や岩手県の **社会経済活動を牽引する中心的役割** を担う。

②交流人口の維持・拡大

・観光や出張などによる **交流人口を維持・拡大し**、**飲食や買い物等の消費を更に喚起する視点**が重要である。

③新たな価値の創出

・**機能集積の利点**を最大限に活かした**新たな価値の創出**を目指す視点が必要となる。

④頻発する自然災害への対応

・災害の発生時においても内丸地区が災害対応を確実に遂行し、防災機能を発揮するためには、ハード、ソフトの両面において **災害への高い対応力**を備えている必要がある。

➡ 土地利用、機能導入で念頭に置くべき事項

⑤ICT（情報通信技術）の活用

・内丸地区が新たなまちづくりを進めるにあたっては、これらの技術を活用することで質の高いサービスを提供し、豊かで快適な暮らしの実現を目指す視点が必要である。

⑥SDGsの実現

・経済、社会及び環境の三側面の調和により、誰一人取り残さない多様性と包摂性のある社会の実現を目指している。
・これはまちづくりにも合致する考え方であり、内丸地区の将来あるべき姿を描くにあたっては、建築物のゼロ・エミッション化など、持続可能なまちづくりを目指す視点が必要である。

⑦ポストコロナに対応した地方創生

・諸手続きのオンライン化やリモートワークの普及が加速したことで、首都圏から地方への移住や企業移転を促進したとも考えられ、このような動向を地方創生の好機と捉える視点が必要である。

➡ 建物等の性能やソフト面で念頭に置くべき事項

内丸地区のあるべき姿

■県都の各として社会経済を牽引するまち内丸

・これまでに築かれた都市機能の集積が維持されることに加え、ICTの進展やリモートワークの普及などを背景にした**多様な機能集積が進み**、**多くの人が地区内で就業するとともに**、東北への誘致を目指す ILC との連携も見据えながら、**盛岡・岩手に育まれた価値や魅力が内丸地区から世界に向けて発信されること**によって、内丸地区から全県、東北にわたる広域に相乗的な経済効果を発揮し続けることが期待される。

・更に、内丸地区には災害対応の中心拠点となる機能が集中していることから、災害発生時にも電気や通信などの機能を損なうことなく、市民や県民の生命や財産を守るための業務を持続できる、**強靱なインフラが地区一帯に整備される**ことが望まれる。

■城下の風格と都心空間が調和するまち内丸

・内丸地区には盛岡城跡公園や櫻山神社を始め、城下町としての歴史に育まれた観光資源が豊富であることから、個々の魅力が一層向上し、城跡や中津川と調和した景観や、個性的な店舗の集合が醸し出す界隈性も活かした一体的な取組により、エリア内の回遊性が向上し、**多様な要素が織りなす盛岡ならではの魅力として国内外から多くの人を惹きつけることで**、市内はもとより県内の観光・交流拠点の活性化に波及効果をもたらすことが期待される。

・また、地区内の観光資源の活用と併せ、将来の超高齢社会やインバウンドの拡大も見据えた公共交通網や都市インフラの整備により、**移動しやすく滞留しやすくなる空間が創出される**ことが望まれる。

■英知が集い未来を創造するまち内丸

・従前からある機能の維持・強化に加え、行政機関や医療機関、IT企業、高等教育機関などが一体となり、医療・福祉の質の向上や脱炭素技術の開発など、様々な地域課題の解決とSDGsの実現に貢献する新たな商品・サービスの創造や人材育成に取り組むことで、内丸地区の強みを更に伸ばすとともに、県内、国内にとどまらず海外との提携も視野に、時代の変化に対応した新たな役割を担いながら、**収益や人材の好循環を生み、まちに活力を与え続ける**ことが期待される。

■内丸プラン

内丸プランの目標

大通・菜園、河南等周辺に経済効果を発揮する昼間人口・交流人口の集積地

・官公庁等が集積し、観光資源もあることで昼間人口・交流人口が確保され、周辺商業地にシャワー効果を発揮する。
⇒検討時に配慮する指標：地区内の従業員数の確保

課題

- 地区内を移動する人の減少
- 岩手医科大学の移転による来街者の減少

浸水が想定される中心市街地における避難や業務継続支援の拠点

・嵩上げや備蓄倉庫を配備することで、中心市街地全体の避難所として機能する。
⇒検討時に配慮する指標：地区内施設での避難受入や備蓄のキャパシティ

課題

- 地区の大半が浸水想定区域
- 一部街区は河岸浸食のリスクがある

盛岡らしい多様な要素を移動しながら体験できるまち ⇒従来の「盛岡らしさ」の強化

・都市・自然・歴史・横丁などの機能、さらに時代性やスケール感の混交という「盛岡ならではの」を体現する場所として、中津川東岸とともに機能する。
⇒検討時に配慮する指標：地区内を歩く歩行者数の確保

課題

- 災害リスクの要因である中津川が「盛岡らしさ」に寄与
- 地区内に立地する歴史資源の保全

人の多様性が生まれ、新たな価値が創出・発信されるまち ⇒新しい「盛岡らしさ」の創出

・現在の官公庁、法曹、警察、メディア、金融にくわえ、大学教員や学生、クリエイター、商業者など、立場を超えて交流する場所として機能する。
⇒検討時に配慮する指標：地区内を事業所の分類の多様さ

課題

- 就業者数は多いものの、職種に偏りがある